

SNS による教育・学習支援の試み

～教員主導の教育から学習者中心の学習へ～

入 江 公 啓

The present study explores the use of SNS (Social Networking Service) for the purpose of educational and learning support. The author used the university SNS to promote the communication between students and the teacher. Students' understanding and satisfaction of the classes were assessed and their opinions and relevant information were elicited. The SNS also served as a community for students. Views about their assignments and messages of encouragement were exchanged. Cooperation and collaboration between students were promoted.

1. はじめに

近年、多くの大学でコンピュータを利用した CMS (コース管理システム) や LMS (学習管理システム) が導入されており、コンピュータを利用した教育・学習の支援が行われている。最近では、これに加えて SNS (ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス) を利用した教育・学習の支援も見受けられるようになった。

SNS は、その名のとおりに社会的な結びつきをつくるためのサービスであり、通常、仲間やグループからの招待を受けて参加する。日記を書いたり、日記を読んでコメントを書いたり、コミュニティに参加して、掲示板に書き込んだりすることが主な活動である。誰が書いたのか、誰が自分のページを読んだのか、仲間がどのようなことを書いているのかも分かりやすいインターフェースになっている。このような仕掛けにより、アクションに対する仲間のリアクションが誘発され、活発なコミュニケーションが行われている。今までは読むだけであった受身的な人々が、書き込みを行う能動的な人々へと変容している。

教育・学習支援の目的で SNS の活用を実践または構想されているものの中には、大学初期教育の少人数クラスでの利用 (多田, 2007), 学習者間の学習の助け合い (殷ほか, 2008), ロールプレイ学習 (市橋, 2008), 目標を共有する人々

同士の行動の習慣化（三好，岡本，2008），クラブ活動など学生間のコミュニケーションの向上（布施ほか，2008），国際交流や留学の支援（村上，中西，2008）などがある。さまざまな目的や場面での活用が模索されているところである。

長谷川，柏原（2008）は，SNSの機能を，①人とのつながりの場であるコミュニティを形成するサービス，②ブログのように誰もが情報を発信し，共有するサービス，③掲示板やチャットのようにコミュニケーションを行うサービス，④これらを効果的に実現するための機能，の4つに分類した。こうした機能をもつSNSは，従来のCMSやLMSとは性質が異なっており（渡辺ら，2008），Web 2.0にも対応した新しい教育・学習支援ツールとしての役割が期待されている（大嶋，2007）。

筆者は，学生に対してネットを通じてシラバス，レジメ，ハンドアウトを提供したり，メールで教材を配信してきた（入江，2008）。また，学生には，インターネット・リソースを活用させたり，ホームページを作成させてきた（Irie, 2002）。これらの取り組みは，それぞれ有益なものであったが，教員から学生への一方通行の情報提供であったり，学生から漠然と情報発信を行うものであった。

今回，前任校において導入された学内SNSを取り入れて，いくつかの授業を行った。教員と学生とのコミュニケーションの場を設けて，学生への理解を深めたり，授業の満足度を測った。また，学生同士の意見交換等を通じて，お互いに刺激しながら学習させた。本稿は，これらの取り組みの中から特徴的なものを選び，その分析を行い，SNSの教育・学習への利用の可能性を考察するものである。

2. 研究の方法

今回利用したSNSは，OpenPNEをカスタマイズしたものであり，プロフィール，マイフレンド，コミュニティ，日記，カレンダー，あしあと，メッセージなどの機能が装備されている。授業では，主にコミュニティの中の掲示板を利用して学生に書き込みを行わせた（図1）。

3. 結果と考察

3.1 授業の理解度と満足度を測る

3.1.1 事例1

最初の事例の授業科目名は「教育方法論」で，外国語学部の3年生27名が履修

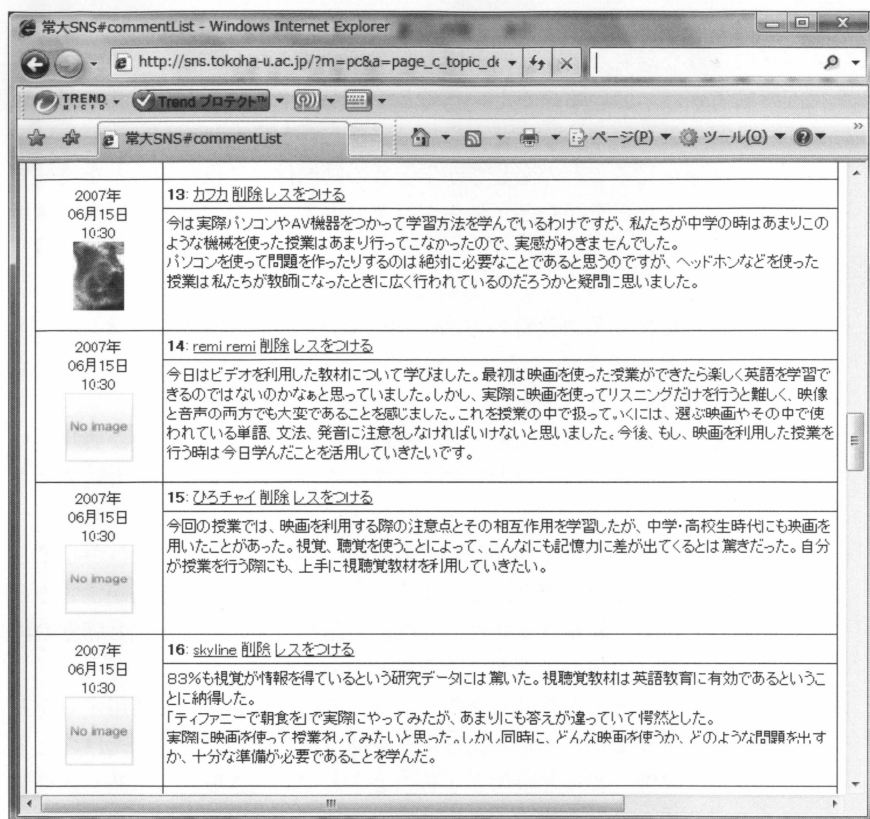


図1. コミュニティの掲示板

した。授業の内容は、映画を教材として英語の授業に利用する場合の音声、映像、字幕の利用方法について考察するというものであった。実際に音声、映像、字幕を単独及び組み合わせて提示し、練習問題を行いながら、それぞれの特徴、利用方法について解説を加えた。教員の意図としては、それぞれの特徴を理解した上で、生徒の反応も見ながら、同じ情報形態だけでなく、いくつかの情報形態を複数回に分けて適宜利用することが効果的であろうということを学生に理解してもらいたかった。

学生に自由な感想を書かせたところ、映像が持っている圧倒的な情報量により、音声だけでは理解できなかったことが映像と音声を同時に提示することで理

解できるようになったことを書いている学生が目立った。映像が加わることによって、どのような話者なのか、話者同士の関係はどうなっているのか、どのような状況で話者が話しているのかということが分かり、そのことが英語の聞き取りに重要な役割を果たしていることを学生は実感したと思われる。同時に、単純ではあるが、映像を見ることの楽しさが学習者の動機付けに役立つことを述べている学生もいた。これらを読むと、学生が授業のポイントを理解し、授業に満足していることが分かる。

- (1) ビデオ教材を使う英語教育の方法を学べて良かったです。ビデオは視覚・聴覚と合わせて効果的に学習できるので生徒たちにわかりやすいと思うし、関心を引くと思います。
- (2) 視覚と聴覚でいかに強い印象を残せるのかがわかったし、生徒が興味を持つ内容だと、なおさら学習力UPにつながると思います。とても勉強になりました!!!!
- (3) 今日の授業で本当に視覚が情報を得るのに大切なことがよくわかりました。英語を聞いたただけだと、どのようなシチュエーションで話すすめられているのかよくわかりませんでした。英語を学ぶのに、視覚と聴覚の両方を利用すると勉強の効率が良くなると思いました。
- (4) 今日の授業ではどんな教材を使用し、その教材をどのように活用するかということを学びました。たとえば単語を聞き取る問題で、音声だけのときと、音声と映像、音声と映像と字幕のときとでは聞き取れる単語や前後関係の把握できる量が全然違いました。

一方、音声だけで提示し、英語の音声に集中することが有効であることを挙げている学生もいた。音声と映像を比較すると映像のパワーに押されがちであるが、音声の重要性を再認識することはこの授業の重要な要素であり、そのことを重要だと感じた学生がいることも分かる。

- (5) 映像を見るだけでなく音声だけで聞きとらせる方法はかなり有効的であると感じました。

また、英語の字幕は文字数に制限があるため省略されることがあること、日本語の字幕は省略されたり、意識されたりするため、実際に話されている英語とは

異なることがあり、字幕の利用については注意しなければならないことを感想として挙げている学生もいた。このほか、シチュエーションが一目で分かる映像を提示したときに適した問題、適さない問題の区別や、問題の部分の単語数を教えたり、日本語訳などのヒントを出したりすることによって問題の難易度を調節することを学習したという学生もいた。

- (6) 実際授業で映画を英語字幕でみている時、字幕と音声が異なっていると生徒は混乱してしまうのではないだろうか？ 実際、授業で使うときはしっかりと説明を教師がしなくてはならないと思う。
- (7) どのようなものが問題に適しているか、ということがわかってよかった。あと、どのようにすれば問題が簡単になるかなどがわかり、よかった。

一方で、こうした機器を使うこと自体に疑問を投げかける学生もいた。また、授業への要望を書く学生もいた。教員が意図した授業の方向性とは異なる意見については、次の授業の冒頭で取り上げて、それに対する所見を述べた。こうした意見を取り上げることは、授業を深く掘り下げ、多角的、批判的に見つめることにつながり、授業をよりよいものすることができる。また、学生からの要望についても、同様に取り上げ、できるだけ応えることにした。

- (8) パソコンを使って問題を作ったりするのは絶対に必要なことであると思うのですが、ヘッドホンなどを使った授業は私たちが教師になったときに広く行われているのだろうか？と疑問に思いました。
- (9) 今は実際パソコンやAV機器をつかって学習方法を学んでいるわけですが、私たちが中学の時はあまりこのような機械を使った授業はあまり行ってこなかったもので、実感がわきませんでした。
- (10) もう少し板書の文字を綺麗に書いて頂けるとありがたいです。

事例1では、概ね授業で意図した内容は理解され、学生が満足していることが分かった。SNSは学生の授業の理解度、満足度を測る一つの有効な方法として授業を運営するにあたり重要な役割を果たした。

3.2 学生の考えなどを理解する

3.2.1 事例2

学生の感想から予期せぬ情報を得ることもある。事例1と同じ授業の感想を読むと、中学校や高校で映像を使った授業を受けた学生もいれば、受けなかった学生もいることが分かった。学生が受けてきた授業の方法や自宅などでの学習の環境を知ることができた。

- (11) 映像も教材になるんだあっていうのが新しい発見でした★☆中学や高校の時に映像を教材として使うことはありませんでした。
- (12) 映像の利用は中学の時の英語の先生がしていました。毎時間、10分間だけ映画を見ることによって、生徒たちの興味とやる気を出すようにしていたのです。
- (13) ビデオという身近な題材で、しかも自分もビデオによる学習をたくさん経験してきたので、その題材を分析でき、なおかつどのようにしたらわかりやすいかということもわかってよかった。

3.2.2 事例3

事例1と同じ科目の別の授業で、「英語教師になりたい理由」を英語で書くという課題を出したところ、提出前にネイティブ・スピーカーに添削をしてもらった学生がいるという情報が入った。この課題は、作文自体も評価の対象にするが、英作文の添削が主たる目的であり、次の授業でお互いの作文を添削するという事は伝えていた。しかし、ネイティブ・スピーカーに添削してもらってはいけなとは言っていなかった。筆者としては想定外のことであったので、こうして提出された作文をどう評価すればいいのか学生に意見を出してもらった。

学生の意見は、概ね筆者の考えと同じで、一般的にネイティブにアドバイスを求めるのはいいが、添削をしてもらって良くなった作文と自力で書いた作文が、同じ基準で評価されるのは不公平であるというものであった。

- (14) ネイティブスピーカーに添削してもらい点数が高いのは当たり前。自力でやった学生と同じ評価をするのは不公平だと思う。ただ学習の過程としては賛成だ。
- (15) 私はネイティブの人に初めから頼るのはよくないと思います。しかし絶対だめとは思いません。まず自分でやってみて、どうしてもわからない表現

などもでてくると思います。そんな時にネイティブの先生に聞きに行くのはいいことだと思いますが、ただ添削目的で行くのは自力でやった学生に対してあまりに不公平だと思います。

- (16) ネイティブに、添削してもらうこと自体は通常悪いことではないと思うが、課題を見てもらい、それを提出するのはよくないと思います。添削してもらった人とそうでない人の差は、大きく開くのは当然であると感じます。課題によって評価されるのであるのならば、二者を同等に評価されるのはフェアではないと思います。
- (17) 完璧なレポートを提出したいという意味は伝わるが、果たしてネイティブの先生に添削してもらった全員が自分の英語力の全てを出し切った上で、添削してもらったかどうかは疑わしい……。楽をした人が多いのではないか……。あらかじめ、次の時間の課題として“添削”が提示してあったことを考えると、ネイティブの先生の添削は必要ないと思う。個人的な心情を含ませて考えると、やはり自力でやった人とネイティブに添削してもらった人とを同等のものとして評価されるのは腑に落ちない。

しかしながら、一部には、良い文章を書こうとした意志や、ネイティブスピーカーに添削してもらったという努力を評価すべきという意見もあった。

- (18) 私は、先生になるものとして、添削はいけないことだと思いますがより良い出来にするためにそのような努力をしていたのだから評価は良くなると思います！！自分の限界+自分の考えをネイティブスピーカーに伝えることにより良いものができるのであればそれは自分にとってもよいことだと思います！！
- (19) 気持は大変理解できる。先生に添削してもらったからと言って必ずしもそのレポートが完璧なものになっているとは思えないし、少しでも良い文章を書こうとする意志があったからこそその行動だから仕方のないのではないか。評価は一緒でもいいのではないか。
- (20) ネイティブスピーカーの力を借りてしまったのは少し良くないかなとは思いますが、より良いものに仕上げたかったと言う気持ちは考慮してあげたほうがいいのではないかと思います。直したことでその人自身の力になればの話ですが……
- (21) ネイティブスピーカーに添削してもらうというのは悪くないと思う。自力

でやった人と添削してもらった人との違い、と言うが、添削してもらった人もその前に自力でやっていて、それで更に時間を費やしてネイティブスピーカーの先生にみてもらっている。しかもその多くの人はいい英文を作りたかったために。それは評価の対象になるのではないかと思う。

結局、ネイティブ・スピーカーに事前に添削してもらうことの良し悪しを問うことはしないが、事前に添削してもらった学生は、添削される前の作文を再提出してもらい、それを評価することとした。今回の件については、仮に学生と筆者の意見が異なっても、同様の対応をしたと思われるが、学生の意見を確認するという手順は、教員と学生がお互いを理解する上で重要と思われる。また、こうした活動が授業の満足度の向上に貢献すると思われる。

3.3 学生が共に学ぶ

3.3.1 事例4

事例1～3と同じ科目の別の授業で、自分の英語の学習方法をグループごとにビデオに撮らせ、それを授業で紹介させ、SNS上で意見を交換させた。授業の目的としては、様々な学習方法の特徴を分析し、それぞれに適した学習方法を考察するというものであった。

全体として、肯定的、建設的なコメントがほとんどであった。次に例示しているものは、洋楽を聞くことを学習方法の一つとして取り入れているという学生の発表に対するコメントとそれに対する発表者から回答である。歌詞カードや通学時間など具体的なポイントについての肯定的なコメントや、ライティング活動の導入といった建設的な提言が書き込まれている。こうしたコメントは学習者にとって励みになる。学習者が共に学習するコミュニティの形成にもつながる。

- (22) 洋楽の利用ではただ洋楽を聴くのではなく、歌詞カードを見て英語と日本語を照らし合わせるところが、勉強になりました。
- (23) 洋楽を聴いたりするのは通学時間とかでも聴けるので自分もやってみようと思いました。
- (24) 洋楽を聴きながら歌詞カードを見て口ずさむ学習法は、耳にも発音練習にも大変効果的だと思います。洋楽を聴き、歌っていることを歌詞カードを見ずに紙に書き出してみるのも writing などに効果があると思います。また、ネイティブの先生に積極的に話しかけるのも大変良いことだと思います。

ます。

- (25) コメントをありがとうございます。聞いて歌うだけでなく、書いてみるという事には、いいアドバイスをいただきました。ありがとうございます☆
今度やるときは、やってみたいと思います。★

3.3.2 事例5

次の事例の授業科目名は「インターネット英語B」で、外国語学部の3年生39名が履修した。授業の内容は、ネットの無料ブログスペースにブログを開設させ、簡単なプロフィールや日記を書き込ませた。そして、そのアドレスを学内SNS上で紹介させ、お互いのブログを読ませ、コメントを書き込ませた。

例示してあるブログは、ケーキを食べに行ったという日記に対して、簡単なコメントが寄せられ、それに対する回答が書き込まれているものである。自分の書いたことが読まれ、それに対するコメントが寄せられることは嬉しいことである。同じ授業を受けている学生が、お互いに学習意欲の向上、維持に貢献している。

- (26) saochan

I met a friend of mine and ate a cake with her. Cakes always make me feel refreshed. I ate right one. It's nice, so I hesitated momentarily to eat. I want to eat another kind of cake in this shop next time. If you know good cakes, please tell me them.

- (27) asuka said...

It looks so cute and delicious!!! I like cake very much. So I would like eat it.

- (28) saochan said...

>asuka

Thank you ;D The cakes were so nice! I went to this store again. If you know a nice shop, please tell me about it+*

これをさらに発展させる形で、学生にネット上の一般のブログを読ませ、それに対してコメントを書き込ませた。すると、そのコメントを読んだ人のうち何人かが、今度は学生のブログを読み、コメントを返してくれた。例示してあるブログは、学生がディズニーランドへ行ったという日記に対して、アメリカの女性が、

日本のハロウィーンについて質問をしているものである。

(29) hiro

I went to Disneyland in this Spring☆ It was really sunny day. I had a lot of fun. I wanna go there again!! ($\geq U \leq$)v

(30) Chrissy said...

Hi Thanks for your comment. I think Disneyworld and Disney land is so fun too! We dress up on Halloween and take the kids from door to door and the kids trick or treat and get candy for fun we have parties in the schools and make crafts about the holiday. What do you do for Halloween?

ブログも、プロフィール、日記などで、ある程度相手のことが分かる仕組みになっている。また、同じ趣味、嗜好をもつ人を検索したり、メッセージを交換したりがしやすいシステムになっている。ブログ上で同じコミュニティに属している外国人とオーセンティックなメッセージの交換をできることは、外国語の学習意欲の維持、向上に大きな貢献が期待できる。

3.4 授業を省察する

事例1及び4では、学生は、授業の感想を書いたり、読んだりすることによって、授業を振り返ることができる。書くという作業を行うことによって、自分の理解度を確認しながら授業を復習する。同時に、他の学生の書き込みを読むことによって、自分の理解度を再確認できる。他の学生も同じようなことを書いていれば安心できるだろうし、違うことが書かれていれば、そういう考えもあるのかと思ったり、自分の理解に間違いがないのか再確認が必要であることが分かる(千葉、中井、2006：千葉ほか、2007)。

4. 結論

SNSを利用することにより、教員の立場としては、学生についての理解を深めたり、授業の理解度、満足度を確認したりすることができた。授業の時間内では、一部の学生の意見しか聞くことはできないが、SNSであれば全員の意見を聞くことができる。また、人前では言いづらい意見もあるが、SNSであればス

クリーンネームを利用することにより言いやすくなることもあるだろう（桑村，2008）。予期せぬ意見や感想を吸い上げることもあり，SNSは授業改善の効果的なツールの一つであることが実証できた。

学生の視点に立てば，SNSを利用することにより，自分の意見を述べたり，授業を振り返ったり，学生同士で協調して学習することができた。これは，学生が情報発信者として学習に積極的に関与することを意味しており，教員主導の教育から学習者中心の学習へ重心が移動したともいえる。

本研究は，SNSの活用を探索的に行い，その記録を質的に分析し，考察を試みたものである。今後は，研究のテーマを絞り，量的な分析を行うことも検討したい。また，筆者の勤務校の変更に伴い，新しい学習環境に対応したSNSの利用も検討したい。

参照 URL

Blogspot	http://www.blogspot.com/
OpenPNE	http://www.openpne.jp/
常大 SNS	http://sns.tokoha-u.ac.jp/

引用文献

- Irie, K. (2002). Literacy in the Internet Age: Improvement of computer skills and English. *LET Kyushu Bulletin*, No. 2, 25-35.
- 市橋貢. (2008). 「ロールプレイ学習システムの概念設計 - SNS, Skype の活用 -」. 『教育システム情報学会第33回全国大会講演論文集』, 216-217.
- 入江公啓. (2007). 「携帯電話を利用した英語の復習～学生の利用状況と評価～」. 『常葉学園大学研究紀要（外国学部）第23号』, 65-75.
- 殷成久, 田畑義之, 緒方広明. (2008). 「SNS を用いたユビキタス協調学習システムの提案」. 『教育システム情報学会第33回全国大会講演論文集』, 122-123.
- 大嶋淳俊. (2007). 「Web2.0以降のラーニング・イノベーション～「学習者主導型ラーニング」の可能性」. 『政策・経営研究』, Vol.4. 220-257
- 桑村佐和子. (2008). 「Moodle を用いた教職課程用コースでのディスカッション」. 『2008 PC カンファレンス』, 286-289.
- 多田実. (2007). 「大学初期教育における SNS の導入」. 『同志社政策研究創刊号』, 117-123.
- 千葉玄, 中井潤一. (2006). 「Blog と SNS を使用した学習環境の開発と運用」. 『2006 PC

カンファレンス』, 355-358.

千葉玄, 中井潤一, 盛屋邦彦, 長岡健, 斎藤文, 長瀬綾乃. (2007). 「SNS を活用した学習支援環境の設計と開発」. 『2007 PC カンファレンス』.

長谷川忍, 柏原昭博. (2008). 「ソーシャルネットワークサービスと教育・学習支援の接点」. 『教育システム情報学会第33回全国大会講演論文集』, 16-17.

布施雅彦, 根本信行, 石原万里, 島袋修, 三浦靖一郎, 小飼敬. (2008). 「高専での SNS システムの導入による学内コミュニケーション活性化の試み」. 『教育システム情報学会第33回全国大会講演論文集』, 136-137.

三好康夫, 岡本竜. (2008). 「習慣化支援を目的とした SNS のデザイン」. 『教育システム情報学会第33回全国大会講演論文集』, 12-13.

村上正行, 中西久実子. (2008). 「国際交流・留学支援における大学 SNS の活用」. 『教育システム情報学会第33回全国大会講演論文集』, 10-11.

渡辺博芳・古川文人・高井久美子. (2008). 「CMS と SNS による教育・学習支援」. 『教育システム情報学会第33回全国大会講演論文集』, 2-3.